

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度第2回上尾市地域包括ケアシステム推進協議会	
開 催 日 時	令和7年3月26日(水) 午後1時30分から午後3時00分まで	
開 催 場 所	Web会議	
議長(委員長・会長)氏名	古谷野 亘	
出席者(委員)氏名	西村 昌雄、榎本 昌己、村橋 憲、濱野 百合子、定方 民子、 岡林 奈津未、小野 慎也、小島 樹子、伊藤 まつ江、 秋山 喜久治、鮫嶋 紀子、山川 英夫	
欠席者(委員)氏名	なし	
事務局(庶務担当)	長島健康福祉部長、川村健康福祉部次長、佐藤高齢介護課長、 小泉主任、藤田(文責)	
説明者	池田保険年金課主査、同大邨主査、上尾市社会福祉協議会大河原課 長代理	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	(1) 地域包括ケアシステム構築に向けた課題と取 組みについて (2) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施 について	別紙のとおり (1) 了承 (2) 了承
議 事 の 経 過	別紙のとおり	傍聴者数 0名
会 議 資 料	資料1 資料2 資料3	
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和7年 5月19日 議長(委員長・会長)の署名 <u>古谷野 亘</u>		

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
古谷野委員長	それでは本日2つの議題がございますので、順番に次第に従って進めていきたいと思ひます。
大川原課長補佐	(1) 地域包括ケアシステム構築に向けた課題と取組みについて—説明—
古谷野委員長	ただいまの説明について、ご質問あるいはご意見がおありの方いらっしゃいましたら、どうぞお願いいたします。
岡林委員	来年度も自立支援型のケア会議がある中で、実際に生活サービス団体の一覧や、社会資源マップが事例にどう活用できるかっていうところもすごく大事なかなというふうに思っています。活用するところまで繋がないと、どうしても紙で終わってしまいがちです。他の地区でも同じような困りごとがあつて、共有できる場がもっと増えてくれば良いなと実際に会議に出ながら思ひましたので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
古谷野委員長	ともすると紙を作つて印刷して配つて終わりつてなっちゃうんですね。
大河原課長補佐	配つて終わりにならないように情報提供に励みたいと思ひます。継続することでまた課題が見えてくるかなと思ひています。
伊藤委員	介護保険ができて、介護の社会化で「ボランティアさんそんなにしないで大丈夫よ」と言われてだいぶボランティア団体の数が減つたりしている中で、全部整つたサロンでお客様のようない形で参加つていうのはやっぱりちょっと嬉しい反面、物足りなさがあるんですね。何か自分たちの考えが役に立つよう集まりがあればいいなと思ひています。公民館での活動は定期的で決まつた活動になつてしまつて、なかなかそういう場がないです。 もう少し自由にいろんな活動ができるあの場が地域の中にいくつかあると元気な高齢者はそこでいろんなことができて、もう少しお役に立つようなことができるのではないかなというふうに思ひています。 それと、男性が少ない現状があり、公民館で映画会を定期的にやっているんですが、その場には結構男性参加しているんです。終了後は見ただけで終わつてしまうんです。 その後で、ちょっとその時代のいろんな映画を見たときの感想や、お茶を飲みながら話をするとか、嫌な人は帰れば良いし、そういう時間があると男性ももっと

	参加するんじゃないかなというふうに思います。 あと、チームオレンジのことなんですけれど、特に財源がないんですね。認知症ご本人である講師を招きたくても財源がない。ぜひチームオレンジの活動に対する財源があるといいなというふうに思います。
古谷野委員長	事務局から、チームオレンジの活動費の財源に関してはどうでしょうか。
事務局	活動費に関しては、他の地区からも同じようなご質問ご要望を受けております。すぐには難しいですが、他市の状況を見て検討していきたいと思いますので、引き続き活動にご協力いただけたらと思います。
小島委員	ちょっと目先が変わるんですけれども、自動車運転免許の免許の返納っていうのが、課題になっていて、ある程度の年齢になると家族から「危ないからやめて」と言われて勇気を出して、返納される方がいるんですね。その人たちに聞いたんですけど、やはり返納は精神的なダメージを感じるそうなんですよ。 免許返納するとお店の割引チケットなどの制度もあるけれども、それ使ってる人はなかなかなくて。 精神的なダメージを受けて、今まで自分が行っていた習い事に行けなくなったという話を聞きます。車もないし気持ちも落ち込んだり。そこには行けないけど、違うところに行けるという意味で、例えば警察署に集いの場マップを設置するのもいいかと思います。 移動手段が問題になっているけれど、移動手段を失うことによって買い物ができなくなるということも一つの課題ですが、やはり精神的ショックは計り知れないようです。
古谷野委員長	しばしば言われてることなんですけど、一般的に現在の高齢者層、私も含めて男性は集いの場が苦手なんです。基本的に、目的もなく、ただ単ににこやかに話し合いをする、これ苦手、極めて苦手。 目的が明確で、それに向かってこれこれをしていきたいと思いますのは比較的とつきやすいのはもちろんですが、今の集いの場は「とにかく集まってお茶飲んで話しましょう」というスタイルが多い。そのスタイルは男性が苦手だということが研究からもわかっているんですけどね。杉並区でやってるのはスマホを持って写真を撮って、それをシェアするという活動でした。これは結構、男性も入ってました。
事務局	鴻巣保健所の山川保健所長が入られました。
山川委員	すいません遅くなりました、鴻巣保健所長の山川でございます。事業が重複して

	申し訳ございませんでした。
古谷野委員長	よろしくお願いいたします。
古谷野委員長	あとですね、一つ、ここで考えておいた方がいいかなと思うことがありまして。それは、「地域包括ケア、地域包括ケアシステムって何だ」ということです。聞かれると、途端に困っちゃうわけですよ。厚労省はいろんな絵を出してきてますけれども、その絵が全て当てはまるかっていうと必ずしもそうではない。その中から、地域包括ケアシステムをつくっていくというような大きな構想、最初に事務局のご説明のところにあったんですが、おそらくここに集まってる委員の方の間でも一致してないんですよ。 日常的に対応している高齢者はいろんな高齢者がいるわけですね。今日話になってる比較的元気な高齢者もいれば要介護の人もあるし、リハビリ中の人もあるし、医療連携が必要な人もあるし、というようにすごく幅があるんです。 高齢者にも幅があり、そしてそれに対応するサービスにも幅があるでしょうね。要は俯瞰したときに、この地域包括ケアの中で、どこが充実してて、どこが足りなくてっていうことがあって、さらに今あるものの中にもいくつか課題があるわけですね。今日はその中のいくつかの課題をお話いただいたんですけど、ただ、これは要介護の人を支援している人から見ると、全然違う話にも聞こえちゃうわけですよ。 ですから、地域包括ケアシステムというのは全体はこういうもの、そしてこの部分はこれ、今日扱うのはこの部分、というような、整理ができるといいかと思うんです。なんて言うんでしょうかね、地図みたいなもの、マップみたいなものを作っていくっていうのも、これからのこの協議会の課題なんじゃないかなというふうな、そんな印象を持ちました。 例えばテレビゲーム、テレビゲームをやってもらうことが地域包括ケアシステムの一部だということはわかるが、イコールでは絶対ない。もしそれがイコールだっというふうに言ってしまったら大変なので、全体像をどうとらえ、そのうちのどの部分にどういう課題があり、そしてそれにどうやって対応していくのか、例えば令和7年度はどういうふうに、どの部分を中心的にやっていくんだという、地図が頭の中にあると、ピンポイントにならないで済むのかなと思います。 先ほど免許返納をした高齢者の話っていうのは、今までひょっとすると地地域包括ケアシステムの地図の中から抜け落ちちゃったところで気づかないでいたところかもしれないですよ。だから、そういう地図を念頭に置きながら、これからのシステム作りを進めていけばいいなという印象を持ちました。
鮫嶋委員	社会福祉協議会の支部活動をしてるんですが、担い手不足などがありまして、私

	達の団地ではサロンが五つあったんですが、3月末で二つ閉鎖しました。 閉鎖はしたけれど、残ったところは自分たちの手でやってもらおうということで、サロンを増やそうというところから離れて支援しています。 元気なお年寄りが多いので、自分たちで自主活動をしっかりできるなと思ってます。「大丈夫、大丈夫」と応援をしながら、頑張っているところですよ。ちょっとそんなこともあるんだってということをわかっていただければいいのかなと思ってお話をさせていただきました。
古谷野委員長	サロンの数が減ったから、衰退してるというふうに受け取る必要は必ずしもないんだという力づけられるようなお話でした。 生活支援サービスが必要な方、介護サービスが必要な方、心理的な支援が必要な方など、色々いるわけですね。 そういういろいろな方、そして地域によって事情も違う状態も違うという中で、じゃあ、どの部分に力を入れましょうとかね、そういうのがあっていいわけですね。だから、サロンが減ったから何とかっていうんじゃなくて、地域に合った活動がより展開されていくということです。第一歩と考えればよろしいんじゃないでしょうか。
保険年金課 池田主査	(2) 保健事業と介護予防の一体的実施について－説明－
古谷野委員長	ありがとうございました。 それでは、ただいまの説明について、御質問あるいは御意見がございますか。 榎本先生、口腔フレールが大きな課題になっているようですが、歯科医としての立場からはいかがでしょう。
榎本委員	はい。歯科の場合は大体症状が出てからじゃないと来ない人が多いですね。基本的にはね。なので、ここでいろいろとアプローチして、返信があった方がいい方向へ向かえばいいなとは思いますが、これはなかなか、現場で働いてるとかなり難しいんじゃないのかなと思います。諦めることなく継続的に声かけをやるしかないんですよね。その方が、これまで60年70年生きてきた結果のお口の中の状態なので、正直言ってなかなか改善が難しいというのが、正直なところですよ。
古谷野委員長	うまく歯科医院と繋ぐってことはできてるんですか。
榎本委員	高齢者の場合、特に口腔については後回しになることが多いですね。 そういう中で、呼びかけに答えてくださる方はまだ可能性があると言ったらなん

古谷野委員長	ですけども、かなり意識の高い方なんじゃないかという気はいたしますね。 特に同じようなことを介護予防・保険事業としてやってるが、下手をするとだぶったり、隙間があって抜け落ちたりするんですが、それを上尾市の場合もうまく共通の土台、共通のチームでもってやれているので、非常にいいなというふうに思っております。 それでは、少し早いですがこれで予定された議題が終わりましたので司会役を下りさせていただいて事務局にお戻しします。
--------	---